

鎌倉での UFO 招来体験 (2015年10月23日収録) 担当:石田昭 2015年11月15日

1 日蓮は、「立正安国論」を書いた。政治的には過激派、現代でいえば極右に近く、明治維新で言えば、攘夷の立場。「元寇が来るから打ち払え」という強硬な意見を幕府に2回提出した。「竜の口の法難」のあと、僧侶の首を斬るのは縁起が悪いとして島流しとなった。その、日蓮の「竜の口の法難」を偲び、鎌倉を訪れ、UFOを呼んでみた。不可能ではなかった。レプタリアン(距離を取って近づかなかった)とベガ星のUFOが現れた。

2 竜の口の法難の現場をタイムスリップ・リーディングすると、満月のような光物が見える。ジャンピングしながら落ちてくるように見え、サムライたちが驚いている。円盤状の金属製「どら焼き」のような形状のUFO。日蓮は「南無妙法蓮華經」を必死に唱えている。そのあと、鶴岡八幡宮の近所にある幕府役所から「処刑中止」の早馬がきた。

3 日蓮を守った「宇宙人」はパトロール中だった。「天鳥船神」と関係がある、人呼んで大川裕太」と自称している。総裁言:「天鳥船神」ならば、天照大神、天御中主神系統だろう、アンドロメダか!。裕太氏はアンドロメダの総司令官(熊形宇宙人)であると判明している。

4 元寇が迫っていたので、国防上の必要から介入した。宇宙協定では「文明に介入してはいけない」とあるが、介入するのは余程のとき。日蓮が死んだら、日本が危機になる。当時の日蓮は幸福の科学と同じ立場。幸福の科学は「ファイナルジャッジメント」・「神秘の方」で中国を想定した国家の侵略を警告している。三国志の時代、劉備と孔明は魏の日本侵略阻止が目的で下生。

5 日蓮の立正安国論を揉み潰し「元寇なんか来ないんだ」といっていたら大変な事になるので、日蓮を生かさなければならなかった。後世の教訓としても残す必要があった。現代、鳥越俊太郎氏は「どこの国が攻めてくるのか、そんな国はない」、榊原英資氏「中国は大切」教訓に無知

6 僧侶は文化を伝えた面もあるが、スパイ的な面、手引きする面もあった。むやみに信仰し過ぎると、あっさり支配されてしまうので、対決姿勢をとらせる必要があった。時宗にも対決姿勢をとらせようとした。当時、「中国は大国だから」という卑屈な意識があったので、「国を護る」意識を持たせたようとした。「中国寄りに手引きするような僧侶」がいた。現代の左翼系学者に、島崎邦彦氏のような地震学者、長谷部恭男氏のような憲法学者がいるようなもの。

7 四箇格言で他宗排撃をしたけど、他宗は中国を無前提に良いものとして受け入れる空気があった。日蓮は釈尊の時代、上行菩薩として生まれて修行していた者で、中国は仏教の中継の地、「中継ぎの中国」を抜いて、「法華經」を日本に伝えているという認識があった。

8 鎌倉時代は「日本の歴史の大きな転換期」そういう時期には、どこの国でも「宇宙からの来訪者」があって、記録したり、地上の手助けをしたりしている。エジプトの地でも同じ

9 大川直樹・日蓮はどの星に関係があるのか? 「こぐま座のアルファ・ワン」かつて綾織編集長が「こぐま座のタータム1星人」と判明している。総裁言:性格的に似ているかも。

10 極楽寺の良観房(別名忍性)との祈祷合戦について、忍性は不成功、日蓮は成功した。他宗排斥は反省しているが、忍性は幕府と癒着して宗教性に問題ありと見ていた。「雨降らし」などはUFOがらみでいくらでも可能である。念力が宇宙人に通じれば「雲発生装置」を持っているから、協力して雨は降らしてくれる。「弘法大使の故事」もあったので、日蓮に「威神力」を与えようとして協力してくれたのだろうが、日蓮本人は分からなかった。日本霊界の神々や大菩薩等が力を与えてくれたものと思っていた。「竜の口の法難」も同じ

11 元寇の神風は天照大神を中心に行った。他宗を攻撃したけど、南無妙法蓮華經の曼荼羅に天照大神を入れているのは、天照大神とコラボしていることを意味する。今世もコラボ